

令和4年度（2022年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立 西谷認定こども 園
----	----------------

1 学校教育目標

「心をつなぎ たくましく生きる子どもの育成」	— 認めあい 育ちあい 学びあう —
・ 自分のことは自分でしようとする子ども	・ 感じたことを豊かに表現できる子ども
・ 友達といっぱい遊ぶ子ども	・ ふるさと「西谷」を愛し、思いやりの心をもった子ども

2 重点目標

○ 一人一人のよさが輝く楽しいこども園づくり	○地域の自然、人とのかかわりを通した開かれた園づくり
○ 家庭、地域と共に育ち合う園づくり	○研究・研修活動の充実による保育者の資質向

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策
園運営	開かれた園づくり	○情報発信 ○保護者や地域の方の教育力を活用した保育活動	A	○ 日々の保育や子どもたちの様子、育ちについて毎日ホームページを更新し発信を行った。職員が交代で更新に携わったことで、より具体的な子どもたちの姿を発信することができた。また、園、学級、園長だよりを通し、園の方針や方向性、担任の思いや願い等を発信するように努めた。 ○ 地域の方や保護者の協力を得て、西谷地域のよさをいかした保育活動に取り組むことができた。栽培活動をはじめ、日々の散歩や地域行事への参加等を通し、子どもたちが様々な直接体験を経験することができた。
	危機管理体制の整備	○ 実情に応じた安全・衛生に対する配慮 ○ 危機管理マニュアルに沿った、実効性の高い訓練	A	○ 昨年に引き続き、手洗いや日々の検温、清掃、消毒、換気等を徹底して行い感染予防に努めた。子どもたち自身も手洗い等の習慣が身に付き、健康に過ごすことができた。 ○ 毎月、定期的に様々な状況の避難訓練を行った。訓練終了後は、職員の危機管理意識を高め、その後の訓練がより実効性の高いものとなるように、マニュアルの修正を行う等、職員で点検を行った。

4 評価項目ごとの学校関係者評価

- 各家庭や地域自治会へ配布されている園だより、学級だより等で園の方針や保育内容、日々の子どもたちの様子が細かく発信されておりよく分かる。また、HPも毎日更新されており、写真も多く掲載されていることから、保育内容や子どもたちの様子がよりわかり保護者、地域に発信されていると感じる。
- 今年度も、コロナ禍でも地域の方と交流を続けることができたことはよかった。その中で、子どもたちが、西谷の自然を体いっぱいを感じる体験ができており西谷ならではの保育が展開されていると感じる。今後も地域の人材、自然環境等、西谷のよさをいかした保育活動を期待している。
- コロナ禍のため、生活面等、様々な場面で制限されることもあったと思う。しかしそのような中、何のために手洗いが必要か、またどのような場面でマスクの着用が必要か等、子どもたち自身が考える習慣が身に付いてきているように思う。今後、新型コロナウイルス感染に対する基本的対処方針が変更になるが、その時々の実情に合わせ対応していってもらえたらと思う。
- 毎月、様々な場面を想定し、こまめに訓練が行われている。子どもたちが、降園後に家庭で訓練について話題にしているということは、しっかりと意識できてきていると評価できる。

	子育て支援の推進	○ 親と子、地域の未就園児親子の相談や学び、つながりがもてる場の提供	B	○ 今年度から、幼稚園部で、降園時にその日の子どもたちの様子や育ちを保護者に伝える場を設けた。保護者と担任がコミュニケーションをとれるよい機会をなっている。保育所部保護者とのコミュニケーションについて方法を工夫する。 ○ 未就園児の活動を定期的に行い、保育所部園児との交流を大切に。また、保護者同士の時間も設けながら、その中に職員も入り未就園児保護者の思いを聞くようにした。	○ 降園時に担任の先生からその日の保育内容、子どもの様子、また保育のねらい等を聞くことは保護者の安心感につながっている。乳児についても、定期的に懇談会の場が設定されており、子育てについて丁寧伝えることができていると感じる。子どもとのかかわりについて具体的に伝えることで、家庭でも意識することができ、子育て支援につながると思う。これからは、保護者が子育てについて負担に感じないような伝え方の工夫も必要になってくると考える。 ○ 西谷地域の子どもたちの多くが既にこども園に入園している。今後、未就園の子ども同士のかかわりを考えた場合、市街地からの来館者が多い西谷児童館との交流等も検討してみてもよいのではないかな。
	教職員の指導力向上	○ 深い幼児理解 ○ 乳児期から幼児期にかけての発達理解	A	○ それぞれの立場の職員が、園児の内面、発達を理解しようという思いをもちながら、保育や研修に取り組んだ。保育記録を作成し、それを基に職員間でカンファレンスを行い、内面理解や保育内容の検討に努めた。 ○ 乳児研修会での公開保育や宝幼研での2歳児の発達についての提案、その他、研修会への参加等、積極的に学ぶ機会をもった。園内でも計画的に研修を行い、乳幼児の発達や発達に応じた環境構成の工夫について学ぶよう努めた。	○ 子ども一人一人の個性を認め、成長に合わせ保育内容を考え指導されている。今後も、一人一人その子がどの方向に伸びていこうとしているかを的確に見極めかかわってほしい。そのために今後も継続して研修に取り組んでほしい。
	幼児期にふさわしい生活の展開	○ 子どもが主体的に遊びに取り組み、気付きや発見が得られる保育内容の工夫	B	○ 子どもの興味関心や実態の把握、その時期、子どもに何を考えさせたいか職員間で話し合い、子どもが「やってみたい」と心を動かし遊べるような環境構成や援助の工夫に努めた。特に直接体験を大切に夢中になって遊んだことで、様々な気付きや発見につながった。 今年度は、子どもの実態から園内での遊びについて環境構成の充実を図ったため、西谷の自然環境を生かした保育が十分ではなかった。今後、子どもの実態に応じ保育への活用を工夫していきたい。	○ 子どもたちが自主的に行動できるようにと考え、保育を進めていることが分かる。その結果、行事一つをとっても、子どもたち自らが考え、友達と協力しながら作りあげようと創造する力が育っていると感じることができる。 今後も、子どもたちが、西谷の自然の中で、西谷のよさを体現しながら子ども同士で育ち合えるような保育に取り組んでほしい。そして、これからの時代を自ら生き抜いていく力を育ててほしい。また、この取り組みを園の特色として広く発信してほしい。
教育課程	基本的生活習慣の育成	○ 個々の発達に応じた、園生活全体を通した基本的生活習慣の確立	A	○ 年間を通して、子どもの発達段階に応じ、自分のことは自分ですることや話を聞く姿勢について、一人一人の子どもに丁寧に接し、指導してきたことで、自分たちで生活を進めていこうとする育ちにつながった。	○ 日々の生活の中で、身の回りのこと等、自分のことは自分であるという習慣が身に付いてきている。これは、本来家庭内でも行われるべきことだと考える。家庭への啓発を行いながら今後も進めてほしい。

	校種間の連携	○ 園・小・中連携の意義を意識した交流の実施	B	○ 管理職打ち合わせ会やふれあい運動会等、3校園合同の行事、研修会では各担当の職員が打ち合わせ及び点検を例年通り行った。また、今年度は、感染症予防に配慮しながら、日常の保育、授業の中での園児、児童、生徒同士の交流も実施できた。引き続き、職員が連携の重要性を意識し、どのような交流、連携が可能か協議しながら実施に向け努力していきたい。	○ 昨年度に比べ、コロナの感染予防に努めながら、前向きに交流や連携について3校園で協議し進められたことはよかった。その中で、年長の子に対する憧れを感じている姿や見習おうとする姿が見られた。子どもの数が減少している西谷地域において、3校園の子どもたちが、互いに刺激を受けながら人とかかわりについて学び、一緒に成長していくことに期待する。
課題教育	人権教育	○ 子どもの年齢に応じたふさわしい人権意識の育成	A	○ 生き物の飼育等、身近な生き物とのふれあいを通し生命の尊さを感じることができた。また、子どもの発達を踏まえた上で状況に応じ、自分の言動について振り返る機会を設け、気持ちのコントロールや言葉での伝え合いの大切さについて伝えてきた。引き続き、その時々課題を子どもに返すことができるように保育者自身の人権意識を一層高められるように努める。	○ 自然と触れ合う体験をすることで、生き物や植物を大切にすることを育み、自分らしさを発揮しながらいきいきと遊ぶことができています。 ○ 今年度、PTAと共に人権の研修会を開催したことは評価できる。今後も人権に対する教師の感性を磨くと共に保護者に対しても人権意識を高める取り組みを行ってほしい。
	特別支援教育	○ 個々の課題の把握と個別指導計画に基づいた指導内容を共通理解した指導の工夫	A	○ 個別の指導計画を作成し、学期毎に見直し、次学期への課題や具体的な支援の在り方について全職員で共有しながら支援に取り組んだ。 ○ 訪問指導等での指導や関係機関との連携も図りながら、個々の発達課題に応じた丁寧な支援に努めた。	○ 子どもたち一人一人の個性、成長を大切に丁寧なかかわりが行われている。引き続き、保護者の思いにも寄り添いながら、子どもたち一人一人を大切に保育を進めてほしい。
独自項目	幼稚園保育所の連携	○ 幼稚園職員と保育所職員との連携	A	○ 幼稚園部、保育所部職員とも子どもたちの様子や保育内容等についてコミュニケーションをとりながら日々の保育を行うことができた。また、3歳児学級が中心となり、乳児と幼児の異年齢の交流についても積極的に取り組むことができた。	○ 幼保職員の区別がつかないほど職員間のコミュニケーションや連携が良好に行われていると感じる。また、日頃の保育や幼稚園行事で、保育所部の乳児と一緒に遊んだり参加したりすることが増えており、日々連携に取り組んでいると実感する。今後もこのような日々の積み重ねを大切にしたい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○ 行事ごとに保護者アンケートを実施し意見集約を行い、フィードバックも丁寧に行われている。また、幼稚園評議員や来賓、交流した小中学校教諭等の意見も参考にしており適切に実施されている。

6 総合的な学校関係者評価

○ 子どもたち一人一人のことを一生懸命に考え、丁寧に愛情たっぷりに保育・教育を行っていることが強く伝わり大変好感がもてる。少人数のため大規模園のような人とかかわりは難しいが、反対に少人数のよさをいかし一人一人の手厚い保育が展開されている。保育内容も明確であり細かい指導を受けているため、子どもたちの成長が目に見えてわかる。今後も子どもが減少傾向にある地域の子育て支援も含め、西谷ならではの保育を期待している。